

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『どんなときでも 私が主人公』と職員全員で作上げた理念を、一人の人間として当たり前の暮らしを当たり前にする事ができるように掲げている。	○ その『主人公』があなたという観点ではなく、あくまでもそこに暮らす方々の主張であるということを忘れないようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の支援の中で理念が実現できているか常日頃から職員同士で意識しながら取り組んでいる ケア会議において理念唱和をし自覚を持ち実践に向け取り組んでいる。	○ ホームに初めて接する方々には(新入所者・新職員・地域の方等)必ず伝え、それによりケアがどのような方向に向かっているのか周知している
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	言葉で伝える機会は乏しいが、日々の暮らしの中でどうしてこのホームはこういう理念なのかを伝えるようにしている。御家族には『主人公』になるにはたくさんリスクがあることを伝え一致して了承されている。	○ 地域にむけた取り組み方は日頃の暮らしにより判断していただくしかないが、完全に浸透していくには更なる努力が必要
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	一歩外に出れば誰でも挨拶してくれ、こちらから先に声をかける努力は惜しまない。本当の意味で自然なおつきあいの距離感があり率先して敷居を低くする努力をしている。	○ 関り方は皆違い、年月をかけて融和していった成果であると理解している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館行事、地区の会合には声をかけて頂く限りは積極的に参加しており、そこでどのような支援が必要なのか伝える努力をしている	

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	『安心こどもみまもり隊』に参加し登下校時にできるだけ子供たちに安心して歩道を歩く事ができるようゴミが落ちていない道を作る。日中独居の高齢者宅を訪問している。地域診療所の祝賀会を主催し、より地域の密着力を高める努力をしている	○	国のモデル事業を町から委託され、認知症ケアに関する地域への発信基地として地域活動にも積極的に参加している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の内容から多くの変更点があり、改善していかなければならない点や、実情が客観的に理解でき検討し取り組みやすくなった事を理解しており、自己評価も職員全員で取り組んでいる。	○	取り組みはできているが、まだまだ理解が足りないところも改めて分かった。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員からの意見をそのままフィードバックし、サービスの質の向上に取り組んでいる。しかしながら、懸案事項を協議してもらう事が少ない為、まだまだ活かせる部分はあと思う	○	この評価が終了したら、早速一項目づつ精査していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター・保健福祉課担当者と情報を密に取り合い、最新の情報、町内の動向、認知症に関する情報共有を常に図っており、当ホームが1番のよりどころとなるよう向上に努めている。	○	とても良い関係が保てているのではないかと思うし、担当者が変わっても協力的であり敬意を表したい程である。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	現在のところ身元引受人がいるため、必要としない現状であるが、今後の新規入所者で対象者があるようならば積極的に制度の活用をすすめる。	○	各スタッフの理解度は決して高いものではないと考えられる為、学ぶ機会を設けた。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの中から何が虐待にあたるのか確認する機会を持ち、検討会を設け日々のケアに活かしている。	○	関連法に関しては細部にわたり学ぶ機会を設ける必要がある。

グループホーム「わが家」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務的に完結することなく、一項づつ疑問がないか確認し説明・同意を得て、起こりえるリスクを理解してもらう努力をしている。契約上の改訂については、一方的な変更はせず十分な話し合いと期間を経て行うことに努めている	○	今後においても、入所における最大限の不安を最小限におさめることができるよう注意を払う必要がある。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個人が安心して話す事のできる環境を整え、適切な環境においてじっくり聞く事ができるよう努めている。ホーム内での生活で完結することなくインフォーマルなサービスを利用することにより、多くの『耳』を配置できるよう努めている。	○	訴えや、意見を表現できない・表現することが難しい方々の非言語コミュニケーションから探ることも日常から鍛錬している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時、生活上の特筆すべき事態のとき等、積極的に報告するよう意識している。金銭管理に関しては、大小に関らず身元引受人において金銭出納帳のチェックを頂き、毎月ごとの詳細コピーを送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な御意見は頂けていると思うが、まだまだ遠慮されている部分もあると感じる。苦情に関しては管理者へ直ぐ話して頂けるので有難い。外部へはどのように発信していただいているのかは分からないが寄せられた情報を日々のケアに反映させている。	○	職員の顔と名前が一致できないとのことで、どのようにPRする方法がいいのか検討している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にそのような話題は現場で話され、一方通行な体制にならないよう個々の意見を大切に考え、良いものを取り入れることが大事であると考えている。	○	運営者と直接の機会は少ないが、みな遠慮することなく管理者には職員は話している。管理者は運営者に対して意見を述べ、それを運営者は聞き入れる体制がある。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>法人本部との連携により、突発的な対応もできる体制になっている。特に人数さえそろえば良いということではなく、日頃から関係のできている職員が対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>『馴染みの関係』には十分配慮し、代替になる場合にはダメージを想定しながら適材適所の配置に努めており、入居者にも理解ができるよう説明する機会を必ず設けている。</p> <p>離職率は低い。法人本部は家族や入居者との信頼関係を築くためにも馴染みの職員が引き続きケアにあたることのできるよう人員配置をしている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>研修に参加した職員の成果や、学んだ事を発表し共有できる体制をつくっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>他事業所からの研修受け入れや、雑誌・メディア取材をきっかけに質の向上に一層意識を向けている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>大事なときにはいつでも最大限協力してもらえる体制は整備されている。職員が何に対して日頃ストレスを感じているのか、そして軽減できるのか考えていきたい</p>

グループホーム「わが家」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者(課長)も直接支援に当たることで現場職員の状況把握はされていると思う。	○	法人内の給与形態がグループホームにおいて日頃の向上心と専門性のある職種であると判断され改訂された。各自、次への目標ができています。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず、本人の訴えやすい環境で聞く機会を設け、主訴はどこにあるのかまず聞き、受入れることを最重要と考える。在宅サービスを利用されているなら、その利用中に関係が築けるものなら早い段階で調整を図っている。	○	相談の段階は、管理者が関わっている。利用に至るまでは担当のケアマネジャー・サービス事業者と密に情報交換をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っている事を本人の思いとは区別し、そこにどのような疲労や、困憊があり至っているのかを収集し、労をねぎらうことに努めている。	○	身元引受人の話だけではなく、近親者に聞ける状況ならばできる限り情報を集める努力をしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける時には、切羽詰っている状況が多い。満床にかぎって相談が続いたこともあったが、町内の他のグループホームへ紹介をした。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中のみ、夜間のみ、ショートステイとその方が馴染めるようにどんなバリエーションも揃えている。急遽対応が迫られた時は、家族の方の協力を得ながら馴染めるよう努めている。	○	ショートステイ・自主事業の日帰りサービスとニーズに沿えるよう日頃から様々なケースに対応できるよう取り組んでいる。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『家族の一員』であることから、支えあいながら生活を送っているという気持ちが双方にあるのだと日々感じることができるよう取り組んでいる。	○	職員がフォローされる場面をあえて作り出し、日常的に声かけやきかけの工夫をしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも情報を共有することを心がけ、関係を断ち切ることなく本人を支えていけるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームだけの生活だけで完結してしまうのではなく、外出・外泊・帰宅と日常的に行われ、お互いに適度な距離を保ち、日頃から家族関係を無理なく継続できるようグループホームの役割を考えている。	○	年間の節目にとらわれる事もなく自由に、外出・外泊ができ、また家族もホームに宿泊され温かい関係ができています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活圏域がさほど広くないが故、馴染みの場所と関係はいまだに切られていない。それは人においても同じであり地域性を活かした支援が可能である。入所できたから叶えられたという事がもっと増えるようにと努めている	○	入所前に楽しみで通っていた通所介護施設へはそのまま通いつづけられていたり、自宅にはなかなか行けなかった友人が訪ねて来てくれたりと継続的な支援ができています
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のよい関係は見守り、トラブルになりそうな関係は事前に職員が黒子となるよう努めている。また、日々感情が変化することもあり普段からの観察を大切にしている	○	自然にお互いで助け合う心があり、ひとつの『家族』という関係がわが家を形成している

グループホーム「わが家」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方の所へ面会に行くことはできていたが、今後契約終了された方の家族等にもアドバイスをいただく機会も考えていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からの何気ない一言や、ふとした時に出てくる言葉に着目している。その発言や思いをその方の主張としてとらえるようチームで検討している。	○	センター方式を、ケアマネジメントのツールとして考えていたが、これからはケアの羅針盤となるような仕組みを試行している段階である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の相談時から、担当のケアマネジャーから詳細の情報をあらかじめ収集している。実際に関わるようになれば、その在宅での状況、今までのサービス利用事業者、その方を取り巻く身内の方等からセンター方式を活用し把握するよう努力している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の生活ペースを見出し『できること』『今はやってないけどもしかしたらできること』に着目し、現在有する力を見極めるよう個々の毎日の介護記録を活用しながらその方を知る努力をしている。	○	季節的な要素に左右される場合があるとき等は過去も参考にし、次へのリズムのヒントになるよう細かい部分を発見している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らしていけるようヒントを日常から把握するようにし、担当者を中心に様々な視点から意見交換をする機会をつくっている。家族においては個別に訪問し、その方が主人公になるよう協力をしている。	○	アセスメントツールから介護計画への導入について、新しい発見が見つかり今後更新時から取り入れるべく検討をしている。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化・要望があればその都度修正し、継続したほうが良い点、改善したほうが良い点をケアカンファレンスを活用し行っている。	○	長い期間入所されていて安定期の方について志向型プランの見極めに今後どう組み立てていけばよいのか検討中である。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は時系列で記入しており、実践や気づきが記録されており、その方の最新の状態が一目瞭然となっている。職員間で共有できるようにしてあり勤務前には必ず目を通して見ている。家族にはいつでも閲覧できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の介護負担を軽減するため、家族が宿泊し交流する場を作ったり、制度外で独自の日中通所を受け入れ安心して暮らし続けることができるよう常に考えている。	○	近所の高齢者世帯の困りごとには電話一本で駆けつけたり、日中独居高齢者には、安否確認も含めた訪問やお招きを常に考え、閉じこもりにならないよう地域のよりどころとなれるよう柔軟な対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	災害に関しては地域防災協定を結び、防災訓練には必ず地域・消防団が駆けつけてくれる関係作りをした。消防署の立ち入り検査時や救急救命講習時に消防機関にできる限りの情報を公開し調査にも協力している。	○	ボランティアという括りでお願いはしていない。この地域で暮らすにはどのような関わり方がいいのか徐々に近隣者の理解が得られてきている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前から利用していた通所介護で馴染みの関係ができていた方には事業所と連携をとり馴染みの関係の継続に協力を得ている。美容院に関しては店員の理解があり全面的な支援がある。	○	地域において何が協力できるのかも常に考え存在をアピールする事も忘れずにいる。お願いする事と同じくらいお願いされるようになれるように日々努めている。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加はもちろんながら、地域の他事業所との均衡を図るうえでの重要な役割も担っている。日頃から受託事業の連携があるため情報交換をこまめに行っている。	○	要介護認定調査時においても、積極的に保健師の訪問があり実情の把握に努めている。国庫補助事業の受託により、認知症地域支援体制の構築に一層力を入れている現状である。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小さい町であり少ない医療機関であるため、主治医の変更はほとんどない。緊急対応や必要である場合の往診も可能なかかりつけ医と良好な関係を保っている。	○	患者と医師というだけの関係を飛び越え、人間関係を大事にした関わりを常にお互いで意識し、病症にとられない関係を持ち、些細な情報もやりとりするなかでの支援方法をお互いで理解している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在の主治医が脳外科医師であり、診断の経過や治療の方針、ケアの方向性や予見など様々な角度でアドバイスがもらえ、HDS-R等の検査も定期的に行いフィードバックしながらの支援もできている。	○	今後、主治医に『認知症サポート医』になる期待をよせており、受託事業にある『もの忘れ外来』設置に関しても前向きである。医療と介護の連携が大事であることを常にお互い理解している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	その方自身をよく知る看護師を配置し、医療連携体制を整備している。急変・特変時はもとより日頃からの情報共有を図り、確実な支援が確立されている。かかりつけ医の看護師においても同様の協力体制がある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談室のケースワーカーと密に連絡を取り合い早期退院にむけて調整を図っている。看護計画が立案される際に、退院後のダメージが最小限に抑えられるよう病院関係者も含めて退院に向け取り組んでいる。	○	今後も同様に連携を図っていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成し、契約時に説明をしている。状況により、様々な想いも交錯していくことも予想されるため、その時々に応じた支援になるように安心できる話し合いができる体制を心がけている。	○	かかりつけ医の協力体制もできているので、スタッフのターミナルケアについての教育もより力を注いでいくことも必要である。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>特に入所前の情報収集は入念に行い、ケアマネジャーには理解頂いている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>一見プライバシーだからと片付けられてしまうことも、本人の家としては成立するであろうという観点も忘れずにいる体制ができています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>言葉の引き出し方を全員で共有し、意図する方向へ自然と向いていくことを念頭に置き『わかる力』を常に押し測りながら支援するよう努力している。</p>

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	職員の決まりが誰にとっての決まりなのかを必ず考えることで、日々の暮らしのうえで障害になっていることを発見している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	今の取り組み方を今後も継続していきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	和洋さまざまな嗜好があるためバランスよく望まれる物を楽しむことが出来るよう努めており栄養バランスも今後注意していきたい。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	体調により困難な場合、足浴や清拭等を行い安眠に向けた支援を今後も継続していきたい。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	まだまだ潜在的なニーズがあるだろうと常に考え、その方の表情の変化や自分らしくいられる喜びを見つけたい。
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	児童の通学路へは天気がさえ良ければ毎日ゴミ拾いに出かけることが習慣になっている。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	職員自らも楽しんでおり、これからはいろいろな所への機会を作っていきたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	鍵をかけては行きたいところにも行けない、訪問する方も不便と、良いことは何もないという意識がある。自由な暮らしというか当たり前のこととして捉えている。

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ず、その方々と行動を共にしているため全員の様子を気にすることが出来る。構造的に恵まれてもおり、個々のプライバシーも守られるよう対応ができています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険であると考えれば、すべてのものを取り除かなければならないという意識がスタッフ全員にあり、生活をする上での当たり前のものは当たり前に存在している。リスクが伴う物に関しては保管場所・個数を把握している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一度起きてしまったことは二度と繰り返すことのないよう、ヒヤリハット記録を活用し、原因を検討しと再発防止に努めている。一人ひとりに予測される事態を理解し、常に共通認識を持っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が救急救命講習を受け、定期的に再講習も行っている。救急時や急変時の連絡マニュアルがあり初期動作について迅速に連絡がいきわたる体制を整えている。	○	いざ対応となったときにあわてることのないよう、定期的に勉強会等も検討している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	合同防災訓練・自主避難訓練は入居者と毎年行っている。地域防災協定を地域と締結しており、先般の大地震の際もいち早く地域の目が届いている。地域の消防団により消火器・消火栓・防災マップの指導が毎年実施されている。	○	日中の夜間想定訓練ではなく、実際に夜間において防災訓練を行うべく調整を図っている。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方々の力を発揮するには、生活していくうえで危険箇所がたくさんあることを、家族全員に説明し予想できるであろう事柄はすでに理解が得られており、その暮らし方を最大限応援してくれている。	○	そのリスクについての傷病等についても含め、迅速な連絡により家族の余計な不安になることのないよう徹底している。

グループホーム「わが家」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を把握しているので、些細な状態の変化も見逃すことが少ない。管理者・看護師に速やかな連絡をとり、指示を仰いだり、早期受診に繋げている。発見からその後の経過に至るまで細かく記録され、全員が情報を共有している。	○	症状が表れにくい方については、表情やしぐさ等から読み取りながら、小さなサインを見逃さぬように注意している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確に服薬できるように支援をしている。また、内服薬の変更についても全職員が把握しており、その変化や効果の観察を続け副作用による弊害が起きていないか注意をしている。	○	薬の管理が出来る方は任せているが、きちんと内服できているかを確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の不快感からくる認知症の症状憎悪をスタッフ全員が理解し、排便チェックを重要視している。薬によるコントロールが必要な方の様子は毎日状態を観察している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後行う習慣づけをし、良い状態を保つことを心がけている。義歯についての洗浄・消毒も実施され、個々にあった歯磨きの見守り・支援を行っている。	○	毎食後職員の支援により、全員の口腔ケアが実現されている。チェックをとり、自分がまだ行っていないのかも人目で分かる工夫をしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事になるよう、献立を立てる時に皆で考えている。スタッフが残食料を把握し共有している。箸・スプーンの使用はこちらの主観ではなくその方の使いやすさを大事にしている。一日の中で飲水する機会を多く持つよう心がけている。	○	母体法人の栄養士にメニューを見てもらったことがあったが、もっと詳細がわかればよりよう栄養指導もできると聞き、専門的にチャックしてもらった体制づくりを検討中である。

グループホーム「わが家」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生的に取り扱われるよう看護師からの指導を得ており徹底している。『菌をださない・持ち込まない』を周知している。現在の保菌者について学習し予防・対策に努めている。	○	入居者・職員にはインフルエンザ予防接種は必ず行っている。最新情報に注意し、予防にも徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を新鮮なうちに使い切り、保存や管理については徹底している。まな板やふきん、調理機器には職員が毎日清潔・消毒を行い、衛生を保つよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、花が常にありどこの家とも遜色のない作りになっている。施設という固いイメージはなく看板がなければ外からは全くわからないほど周囲にマッチしている。個人の表札を掲げ、近所の方にもとても愛されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からあるほぼ一般的な家庭の空間であり、特別な施設のような堅苦しさは感じられない。夏になれば玄関は網戸一枚、縁側から外が伺え、襖に障子、冬は家族全員でコタツで暖を取ると今まで暮らしてきたすべてが揃っている。	○	居間ではTVの音がし、台所からはご飯を思い出せる匂いや調理の音、近所の畑の耕運機が通り、家族にかならずいたヤギの見える生活にと、かざらなくとも最高の家である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのくつろぎやすい場所がだいたい決まっており、それを侵す者がいない。狭いなりきにその場で好きなことをし、それぞれの過ごし方がある。イス・床と身体の状態に合わせてその時に居たいと思う場所がそれぞれにある。		

グループホーム「わが家」

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>馴染みの物がなくても、その方が安らげる空間になれるように支援を続けていきたい。逆に物がとても多い方にはその歴史をヒントに居心地よく今後も過ごしていけるよう支援を続けていきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>トイレには換気扇・人感知ヒーターが設置され、臭いの不快や寒さ対策をしている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>すべてに危険が伴うというスタッフの共通認識によって見守る体制が出来ている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周や空間の活用</p> <p>建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>裏庭には畑で作物を育て、庭では花を植え、自由にできる環境がある。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム「わが家」

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)